

ミューズ No. 5 (平和のための博物館市民ネットワーク通信)

発行：2001年4月 事務局:平和資料館・草の家(高知市升形9-11)

Tel: 088-875-1275. Fax: 088-821-0586

コーディネーター: 「草の家」館長、西森茂夫

<http://ha1.seikyou.ne.jp/Shigeo.Nishimori/>

GRH@ma1.seikyou.ne.jp

海外の平和博物館について

「草の家」国際交流部 山根和代

* 第4回平和博物館国際会議：2003年に延期

平和博物館国際ネットワークのコーディネーターであるDr. Peter van den Dungen のお便りによりますと、来年ベルギーで開催する予定であった国際会議が諸事情で2003年に延期されることになりました。これまで準備のため何度も会合が開かれてきましたが、もう少し準備に時間が必要のようです。今後ニュースが入り次第、お知らせします。

* Dr. Ursula Maria Ruser 来年来日の予定

国連発行の平和博物館ガイドブックの編集をされたDr. Ursula Maria Ruser さんが、来年来日の予定です。(日程は未定です)彼女は、平和を目指す芸術家の会の会長もされていました。ウルズラ・マリア・ルーザーさんは、日本での講演旅行で、次のような内容を考えておられます。

1. ヨーロッパの平和運動の母と言われているバーサ・フォン・ズットナー女史(Bertha von Suttner)に関する講演会
2. 曼荼羅のワークショップ：一日(10名以下。最大15名)曼荼羅は、自己を理解する助けになります。
3. より良い生活のためのワークショップ(2-3日。週末など)平和で充実した人生を送るのに、役立つでしょう。

関心のある方は、「草の家」に御連絡下さい。講演旅行の日程の調整をしたいと思います。

*** **

平和博物館国際ネットワークのニュースno.13より

国際ネットワークのニューズレター発行(2001年1月)が遅くなり、今回は約二号分の量があります。要約してお知らせします。

* ベルリンの反戦博物館：開館75周年記念を祝う

ドイツのベルリンにある反戦博物館では、2000年10月1日に開館75周年のお祝いをしました。これは世界で最

初に造られた反戦博物館ですが、第一次世界大戦の記憶を保存し、戦後の世代に平和と非暴力の精神を教えるために、エルンスト・フリードリッヒによってベルリンのミッテに創設されました。1933年にナチスが反戦博物館を破壊したため、フリードリッヒはスイス、ベルギー、そしてフランスへ逃亡しました。第二次世界大戦後、彼は1967年に亡くなるまで、パリの近くにあるセヌ川の島、「平和の島」で平和活動を続けました。1982年に孫のトミー・スプリー氏は、仲間の教員の援助を得て、ベルリンのウェディング地区に反戦博物館を再建しました。

記念式典には、この地区の代表者や多くの社会民主主義者の政治家が参加しました。反戦博物館の向かいにある小さな公園と子どもの遊び場が、「エルンスト・フリードリッヒの遊歩場」と名付けられました。彼を記念した銘板が初公開され、そこには「エルンスト・フリードリッヒ（1894-1967）：平和主義者およびベルリンのミッテに世界で初めて反戦博物館を創設」と書かれています。また「私は敵を知らない」という題で、フリードリッヒの生涯や活動についての展示が始まりました。彼はかつて「私は国境の向こうにもこちらにも、敵という人を知らない！私が知っているのは、人々だけだ」と書きました。2001年の春まで展示され、毎日16時から20時まで開いています。

その展示会は、二年前に入手した別の建物にあるピースギャラリーで開かれました。そこでは地元の芸術家により、平和、人権、人道主義をテーマにした展示が行われています。

『私は敵を知らない』は、トミー・スプリーによって書かれたフリードリッヒの伝記の題でもあります。その本は、展示会と同じ時期に出版されました。それは彼の初期の伝記（1935）、当時やその後の出版物や記録を含めたフリードリッヒの文書に基づいています。130ページの本を読むと、すばらしい平和活動家の魅力ある全体像を知ることができます。その見事な本の魅力は、一ページおきにある写真で、そのいくつかはカラー写真で、初めて公開されています。

昨年1月には、偉大なアルベルト・シュヴァイツァー生誕125周年を祝って、彼についての展示をしました。（1875年生まれ）人道主義者、医者、神学者、哲学者、オルガン奏者、平和主義者であるシュヴァイツァーの生涯が、三十四枚のパネル写真で展示されました。

また昨年12月13日、トミー・スプリー氏は、祖父の反戦博物館を保存し、それを文化的な交流の場にしたことに対して、その地区で最高のメダルを授与しました。心からお祝い申し上げます。

トミー・スプリー氏の本の注文先：the Anti-War Museum: Brusseler Str. 21, D-13353 Berlin; Tel. 00-49-30-45 49 01 10 or 00-49-30-4 02 86 91 価格：4.90マルク（送料は別）

* スイスのルサーン：国際戦争・平和博物館百周年記念（2002）

1902年6月にスイスのルサーン（Lucerne）に、国際戦争・平和博物館が開館しました。創立者ブロッホ（Bloch）は、ポーランドの実業家で、「戦争の行く末」（The future of War: 1898）の著者です。彼はその中で、戦争がどう展開したかを記録し、次の戦争はヨーロッパを滅亡させるだろうと警告しています。

ルサーン市では来年の百周年記念に、ブロッホ、彼が創立した博物館、平和博物館、平和教育についてシンポジウムを開催する援助をする可能性があります。詳細が分かり次第、お知らせします。

* オーストリアのシュライニング：米国コールゲイト大学Nigel Young氏より

「戦争か平和か、暴力の賛美から平和の文化へ」という展示が、今年の5月8日から11月5日まで、オーストリアのシュライニングにあるお城で開かれました。このお城はもともと13世紀に建築されましたが、15世紀に改築されました。ウィーンへ着くと、掲示板やポスターで展示の宣伝がされていました。

この博物館は、伝統的なものと異なって展示が教育的で、特に子ども達が体験できる場がありました。展示は芸術的で、平和の歴史、グラフィックアートの作品、音楽があり、子どものテーマも明らかにされていました。展示に大変な努力をしたことが感じられますが、批評するとすれば、テーマや展示の方法が多すぎて、少し頭が混乱しました。もう少しテーマに一貫性があったら、良かったかもしれません。また会場がお城、つまり軍国主義、支

配、土地の収容、拷問の場であったお城という事実が、言及されていません。

さらにこの平和博物館のあるブルゲンランド(Burgenland)には、平和の歴史や民族浄化、特に1930年代のユダヤ人に対するもの、がありますが、それらに言及していません。今後平和博物館として、その課題に取り組むことが可能だと思います。

またこの町がユダヤ人の町であるのに、ホロコーストへの言及もありませんでした。また非暴力に関する展示では、ガンジーとキング牧師の写真があるだけでは、不十分だと思います。また1980年代のハンガリーやチェコスロバキアにおける革命に関する展示をすることができるでしょう。

しかし戦争を賛美するおもちゃや暴力的なマスコミの報道や水源に関する紛争解決について、すばらしい展示がありました。

全体的に見て、シュライニングでは、平和の活動センターとして、また国際的な平和博物館として大変大きな一歩を踏み出しました。これは「世界の子供達に平和と非暴力の文化とつくる国際10年」(2001-2010年)へのすばらしい貢献だけでなく、ヨーロッパ平和大学や遠方から来る学生にも非常に貴重な平和博物館です。国際ネットワークのメンバーの皆さんが、ここを訪問し、学生や同僚を連れて行くことを是非お勧めします。(Nigel Young氏は、ニューヨークにあるコールゲイト大学平和学講座を担当されています。

* シーム博物館：エルサレム (アンドルー・リグビー)

最近私はエルサレムで教えるため、そこへ旅行し、対話と理解と共存のためのシーム博物館を訪問しました。その博物館は、1967年戦争の以前にイスラエルが支配した西エルサレムと、ヨルダンが支配した東エルサレムの古い境界線(シーム)の上に建てられています。地主の名前にちなんでトゥアジェマンの家と名付けられましたが、パレスチナ人の建築家、アントン・バラムキ(Anton Baramki)の家として建設されました。1948年その家族は逃亡し、財産はイスラエルの軍隊に接収されました。その後19年間は軍隊の駐屯地として使われ、コンクリートの壁でエルサレム市を二つに分けたマンデルバウム門を見下ろす所にあります。

1967年戦争の間、その家は文字通り前線にあり、絶えず攻撃にさらされていました。しかしイスラエルが東エルサレムを併合した後、それはもはや軍隊の駐屯地として必要ではなくなりました。1980年代に入り、当時のエルサレム市長のテディ・コレック氏が「統一された都市」を祝福するために、その家を博物館として修復しました。しかしそれは、平和博物館とは言えませんでした。というのは、それはイスラエルの支配下で、その都市の統一をした軍事的勝利を祝福したからです。

1996年コレック氏によって設立された非営利団体のエルサレム財団は、1993年イスラエルとPLOの間のオスロ合意の調印後、政治的経済的变化を反映させるために、その博物館を改革することを決定しました。300万ドル以上の資金は、ドイツのvon Holtzbrinck家の人々によって提供されました。また年間の150万ドルの大半も提供され、イスラエル政府や自治体機関から資金の提供はありません。

その博物館は1999年6月22日に開館し、イスラエルのグラフィックアートのラフィー・エトガー(Ralph Etgar)によって、マルチメディアを使って設計されました。その概要は、以下の通りです。

1. 訪問者が最初に入る部屋の壁には、旧約聖書の創世記13章8節が26ヶ国語で書かれている。土地と水をめぐると争いがある中で、アブラハムは甥のロトに「おまえと私の中で、争いがないことを願う」と言うが、結局その二人は仲たがいます。これは4000年前のことであるが、その後何か変化したのだろうか？対立が生じる問題は絶えず存在するかもしれないが、恐らく重要なことは、両者が対話をする用意があれば、対立を避けることができるということである。
2. 次の部屋に行くと、1948年から1967年の間エルサレム市を分割したコンクリートの壁が、復元されている。模造ののぞき穴を通して、1958年の映画の場面を見ることができる。当時壁の向こうに住む人々の生活を一瞬見せる場面や、それをのぞき穴を通して見ようとする人々の好奇心を知ることができる。
3. 次の部屋は暗く、「私ではない！」という標示がある。そこでは、世界中の暴力や恐怖、憎しみや不寛容の結果、どうなるかを示した例が、3分のビデオで上映されている。その間「私ではない！」という言葉が繰り返

される。

4. それから次に世界中の分割された都市に関するニュースの見出しやイメージが、マルチメディアを使って展示されている。ここで「白と黒は、対立しているのではなく、お互いに補い合っている」というテーマが、再び明らかにされている。
5. 次にビデオが上映されている部屋があり、テーマは相違と共通性である。エルサレムに住む様々な人々の生活（出産、病気、家庭生活など）が示されている。どんな文化であれ、人間性は共通していることが伝わってくる。
6. 次の部屋では、エルサレムに住む人々の様々なイメージを、映画で知ることができる。例えば、アラブ人、非常に伝統的なユダヤ人、ヨーロッパ出身のアシュケナージ（ドイツ、ポーランド、ロシア系ユダヤ人）、イラクやシリア出身のユダヤ人など。スクリーンの上では、様々な人々のイメージがいっしょになり、イヤホンでエルサレムに住む色々な人々の声を聞くことができる。
7. 次の部屋では、先端技術を駆使して、壁に落書きをしたり、展示に関する批評を書くことができる。
8. 訪問者は展示物を見て感じたことを表現した後、様々な問題に関する討論をする。私（イギリス人）は、アメリカ人一人と南アフリカ出身の二人と展示物を見たため、イスラエル人だけからなるグループほど、感情的な討論にはならなかった。しかし私達が出し合った疑問は、重要であった。エルサレムのような都市の未来は、どうなるのだろうか。そのような都市を、すべての人々が共有することはできるのだろうか？それとも土地を分割し、対立するしかないのだろうか？私達に、何ができるのだろうか？私達は、相違の下にある共通した人間性を認め合うことができるだろうか？相違はいつも、不和や憎しみにつながらなければいけないのだろうか？
9. 最後にその建物の屋根に行き、エルサレム市の様々な側面を見ることができる。パレスチナ人の東エルサレムとイスラエルが支配している西エルサレムを分割している車道。1967年戦争後パレスチナ人の土地に作られたユダヤ人の地域などである。

この博物館には、学校の子供達やイスラエル人の兵士がくる。ここでは、エルサレムの政治を扱うことを避けている。ハイテクを駆使していることが少々気がかりであるが、若者は抵抗を感じないであろう。

好みがどうであれ、シーム博物館は確かに多文化を尊重する教育を行っている。そこで訪問者はエルサレムの対立状況の中で、自分の果たす役割について考えさせられる。様々な宗教が存在するエルサレムで、この博物館は相違と多様性を大事にすべきであることを強調している。

(Andrew Rigby 氏は、コヴェントリー大学の「許しと和解研究センター」の所長で、昨年5月にシーム博物館を訪問。)

Museum on the Seam: 4 Chel Handasa St., P.O.B. 1649, Jerusalem 91016, Jerusalem 91016 Israel. Tel.: 00-972-2-6261248 and 6281278; Fax: 00-972-2-6277061;

E-mail: admin@mots.org.il; <http://www.mots.org.il/>

開館時間：日、月、水、木－10 am～5 pm; 火－2 pm～8 pm. 予約をして、訪問すること。

* ジュネーブ：国際赤十字・赤新月博物館の訪問（アン・ケリング）

国際赤十字・赤新月博物館は、11年前に創られ、最近改造されました。館長や研究員などが、12名います。一週間に一日ボランティアでガイドをする人が70人いて、一年ごとに契約の更新をしています。15カ国の言語で、対応できるようにしています。

展示場は2200㎡あり、その10%を一時的な展示に使っています。壁の移動が可能で、照明は天井のレールに留めているので、展示物の配置をかえることが簡単です。今後500㎡の新しいホールを建設し、一時的な展示物を置く予定です。

年間約75000人の人々が、訪問します。その3分の2の人々が常設展示を見に来て、残りの3分の1の人々が一時的な展示を見たり、夏の間中庭で開かれるコンサートに参加します。主として、観光客、学校の子供達、地元の

人々が来ます。学校の生徒は、一時間位展示を見て、赤十字社の代表者やボランティア活動をしている人に会ったり、映画を見たりします。

訪問者はガイドに案内され、まずこの博物館について知ったり、あるいはガイドが中心になって討論を始めます。ロイター通信社のニュースが上映されたり、赤十字社で働く人々の活動や戦争の犠牲者などについて、短い映画が上映されます。これらは、若い映画製作者の協力を得て創られたものです。

歴史に関する展示場では、まず様々な言語で書かれた歴史的な文書を見ます。次に、デュナンの先駆者、ソルフェリーノ（イタリア Lombardy 州南東部の村：1859年のフランス軍とオーストリア軍との激戦地）の戦い、机に向かって仕事をしているデュナン、赤十字社に関連した物や医療用品の入った陳列箱などを見ます。来年彼のノーベル平和賞受賞百周年記念と関連させて、デュナンに関する特別展示をする予定です。

博物館で最も印象的なのは、第一次世界大戦の戦争捕虜の名前がある公記録です。それはガラスの箱に保管されていますが、そこは一週間に一日学者のために錠を開けます。そこでは過去に書かれた葉書を数多く集めて、展示しています。戦時中のニュース映画が、バックグラウンドミュージックを流しながら上映されています。二つの世界大戦の間の社会情勢を見せた後、第二次世界大戦に関する映画が上映されています。今後この部分を新しくする予定です、館長はスポンサーを探している所です。外部の専門家も入れて、今後5～6年かかるでしょう。

現代に関する所では、（1）戦争捕虜の保護（2）地雷の犠牲者を援助し、社会復帰させる。（3）家族の絆を取り戻す。（4）災害後の救援（5）社会福祉の向上の、5つの概念が示されています。これらは別々に仕切られていて、それぞれのテーマに関連する物、ポスター、写真、映画、コンピューターなどを使用しています。感動的なものは、戦争捕虜が作った物の展示でした。

博物館には、展示物のデータベースがあります。それは今のところ文字ばかりですが、来年写真も入れる予定です。さらに4ヶ国語のCD-ROMもあり、博物館のあちこちで使用できますし、博物館の売店で入手できます。ジュネーブを訪問される方は、是非この博物館を訪問することをお勧めします。

（Ann C. Kjelling は、オスロにあるノルウェーノーベル研究所の図書館長です。）

* アルバート・シュヴァイツァー博物館

ドイツやオランダなどでアルバート・シュヴァイツァー生誕125周年を祝い、展示がされました。（1875-1965、1952年にノーベル平和賞受賞）これは、フランスのGunsbachにあるアルバート・シュヴァイツァーの家・国際アルバート・シュヴァイツァー・センターの存在に注目する良い機会です。その家にはシュヴァイツァーや家族の思い出の品や彼の古文書がたくさんあり、彼自身が設計しました。50代始めには、その家は彼のヨーロッパにおける家になりました。1998年にはその家の70周年記念を祝い、またアルバート・シュヴァイツァー散歩道が作られました。そこには1969年に、彼の記念碑が作られました。

アルバート・シュヴァイツァー・センターでは、ニューズレターと年報が出されています。管理者はSonya Poteau さん。月曜日を除き、毎日9-11:30と2-4:30に開館。

住所：8 route de Munster, F-68140 Gunsbach, France. Tel. & Fax: 00-33-3-89 77 31 42;

E-mail: A.I.S.L.@wanadoo.fr 及び info@schweitzer.org

<http://www.schweitzer.org/>

* スペインで平和博物館開館

スペインに平和博物館が開館したニュースは、「ミューズ」No.4でお知らせしましたが、その際「草の家」から被爆者のパネル写真が贈られたこと（山道佳子氏がスペイン語に訳されました）、また広島平和記念資料館からビデオが贈られたこと、また開会式には約200人が参加し、マスコミで大きく報道されたことが載っています。

今後他の博物館で、ポスターなどの資料を送ったり、援助をしていただきたいと思います。

連絡先：Ms. Natividad Fortea Badia: C Cuba n 64 pta 8, Valencia, Spain 46006

* カタニアでの平和の展示と平和博物館：シチリア島

非暴力に関する大規模な取り組みが、2年半前カタニア市長の支持を得て始まりました。その準備として、2000年1月30日から2月3日まで様々な行事がありました。会議、討論、芸術的文化的取り組み、映画やビデオショー、展示などが、平和団体、人権団体、若者の組織、地域の団体などによって行われました。ほとんどの自治体の教育・文化機関が、支持しました。すべての取り組みは、「戦争を止めさせる委員会」によって組織されました。

ある新聞で「平和のキャラバン」と報道された運動では、様々な都市や町を訪問し、平和と非暴力への意識を高めるために、平和のポスターの展示をしました。展示のテーマは様々で、女性と平和、平和の文化、芸術と平和、教育と平和、良心的徴兵忌避、平和運動などです。展示で使われたポスターは、イタリアのボローニャにある国際平和ポスター資料センター(the International Pacifist Poster Documentation Centre)で、入手可能です。さらにイタリアにおける地雷禁止運動などのように、平和、環境、人権団体によって、展示が行われました。

カルタジロネ市(Caltagirone)にある有名な国立芸術学校では、平和をテーマにした陶製タイルを作る取り組みを始めました。テーマの一つに、平和博物館のロゴがあります。ロゴ入りの陶製タイルに関心のある方は、下記の方に連絡をして下さい。

Enzo Sinatraさん。住所：Piazza Bellini 3, 95041 Caltagirone (CT), Sicily

E-mail: enzosinatra@tiscalinet.it (または、ramorro@freemail.it)

またIl Ramorroという平和・環境団体の援助を得て、その市に平和博物館を建設する予定があります。

一週間続いた行事の最後には、パテルノ(Paterno)にあるノルマン様式のお城で、平和ポスター展の除幕式をします。そこに近い将来平和博物館を創設する予定ですが、市長や文化及び観光事業担当の議員の支持を得ています。以前マフィアと関係があった組織から没収した建物に、平和博物館を創る予定ですが、これは実に適切で励みになる計画です。過去十年間シチリアやイタリアのその他の地域で見られた組織的な犯罪と暴力に反対する取り組みが成功したこと、また非合法的な事や威嚇について反対の意見を述べることは、取り組みのテーマのひとつでした。その行事は、シチリアの様々な新聞で報道されました。

連絡先：Muse3の8ページ参照

* 国立インド自由運動博物館

最近インドで、ボンベイに国立インド自由運動博物館を建設する目的で、公立慈善団体が設立されました。担当のリシー・ブハルチャ(Licy Bharucha)博士は、詳細を次のように知らせてきました。(2000年1月25日の手紙による)

私達は明日、インドが主権を有する共和国になった50周年記念のお祝いをします。自由な国になって、52年過ぎました。しかしインドで自由を求める運動をテーマにした博物館は、全く存在していません。インドにおける自由のための非暴力的活動は、アジアやアフリカ諸国にとって先駆的なものです。私達が計画している博物館は、平和博物館と呼ぶことができます。と言うのは、私達は自由、共同社会の和、世界平和、非暴力などの理想を伝える目的を持っているからです。自由のための運動がある時、人のために尽くしたり、自分が犠牲になったりする雰囲気は国中にありましたが、これを若い世代に伝えるべきです。博物館の建設はまだ始まっていませんが、私達は自由のために活動をした人々と話をして、記録を取り始めました。またインドの自由のための闘いに関する視聴覚教材を、求めています。さらに海外にいる友人の様々な貢献に焦点を当てた場所も設ける予定です。

最近の手紙によりますと、博物館を建設する予定地がほぼ決まったそうです。

ガンジー及び平和研究者のブハルチャさんは、ボンベイにあるガンジー記念博物館小委員会のメンバーです。連絡先は、次の通りです。

607 Crescent Park, Dattapada cross Road no.1, Borivali(East), Mumbai-400 066, India. Tel.: 00-91-22-863-1985.

* クラ・フランダ博物館：クラサオ島

(クラサオ島：西インド諸島南部、ベネズエラ北西岸沖の島。オランダ領Antillesの最大の島)

1999年4月クラサオ島の首都Willemstadに、クラ・フランダ博物館が開館しました。(クラ・フランダは、オランダ中庭の意味)博物館は、以前オランダの仲介業者がアフリカの奴隷と様々な商品の貿易をしたことがある場所に建てられました。奴隷が到着した後、売られるまで入れていた監獄が、博物館の一部に再建されています。奴隷を運んだ船で使われた手かせなどの複製品で、船の中で行われた残虐行為に焦点を当てています。さらにフロリダ大学とライデン(オランダ西部の都市)の協力を得て、「黒人のホロコースト」に関する学術的な講座を開くために、研究センターが作られました。奴隷博物館に入ると、マルティン・ルーサー・キングが「黒人のホロコースト」に言及した内容が展示されています。約5000万人から1億人のアフリカの男性、女性、子ども達、そしてその他何百万人もの奴隷が、大量に殺害されたのです。この「人類歴史博物館」では、アフリカが起源である人間の進化、西アフリカの文明の重要な文化遺産、19世紀及び20世紀において白人のマスコミで描かれた黒人のイメージに関する展示もしています。また1850年から1950年までの間、アフリカの人々を描いたドイツとフランスの出版物の展示も行われています。

その博物館は、オランダのビジネスマンであり博愛主義者であるジェイコブ・ゲルト・デッカー(Jacob Gelt Dekker)によって創設され、資金が調達されました。彼の父は、第二次世界大戦中、最初の妻と子ども達を失いました。その博物館を創った目的は、アンティル諸島の人々とアメリカの黒人が、自分達の豊かな歴史を再発見し、先祖に対して誇りを取り戻すのを援助することです。博物館の開館は、地元のマスコミで広くかつ温かく報道されました。

連絡先：Museum Kura Hulanda, Klipstraat 9, Willemstad, Curacao, Netherlands Antilles. Tel. 00-5999-462-1401; E-mail: kurahulanda@interneeds.net;

Website: <http://www.kurahulanda.com/>

(情報提供者のGerard Lossbroek さんに感謝します。)

* 展示「ヨーロッパの壁における50年間の平和(1950-2000)」

100枚のポスターの展示が、2000年4月から10月まで、イタリアのボローニャの3ヶ所で行われました。ボローニャ市は、2000年ヨーロッパの文化都市として選ばれたことを祝って、展示が行われました。ポスターは、ヨーロッパにおける過去50年間の平和運動の様々な考えや活動を示しています。例えば、良心的徴兵忌避、戦争に使う税金に反対する運動、軍縮、平和教育などです。展示は、ボローニャにある国際平和ポスター記録センターで組織されました。そのセンターでは、ヨーロッパ各地のポスターを約2000枚集めています。そこは1993年に創られた慈善団体です。1985年にはボローニャで、「戦争と軍備拡張戦争に反対し、平和と非暴力の教育」というポスターの展示が行われました。

100枚の説明入りポスターが載った貴重なカタログが、イタリア語と英語で出版されました。その中には、人々の意識を高めたり、行動に影響を与えるポスターの役割や、西ドイツの歴史、過去50年間のヨーロッパ平和運動についても書かれています。

カタログ名：50 Anni di Pace in Europa/50 Years of Peace in Europe

編集者名：Vittorio Pallotti (センター所長)

入手先：Via Capramozza 4, I-40123 Bologna, Italy. Tel. 00-39-51-584513; Fax: 00-39-51-583610; E-mail: cdmpi@iperbole.bologna.it

もし上記のポスターに関心があれば、輸送費や保険などについて問い合わせして下さい。

* ウィリー・ブランドの展示

ウィリー・ブランド元ドイツ首相財団では、20世紀の優れた政治家で1971年にノーベル平和賞を受賞したブランド氏に関する展示物を創りました。展示物は、「自由のための闘い：ウィリー・ブランド(1913-1992)」があり、またブランド氏に関するビデオも上映されています。

展示場とその住所： the Bundeskanzler-Willy-Brandt-Stiftung: Rathaus Schoeneberg, John F. Kennedy Platz, D-10825 Berlin Germany

開館時間： 10 am ~ 6 pm (12月24日と31日は閉館)

Tel.:00-49-30-787707-0; Fax: 00-49-30-787707-50; E-mail: info@willy-brandt.org

Internet: <http://www.willy-brandt.org/>

ブランドの生涯に関する移動展示物はもう一つあり、Friedrich Ebert 財団によって作られました。1993年ドイツの多くの都市で展示され、2000年に初めて海外で展示されました。5月から8月までオスロの市庁舎で展示されましたが、ブランド氏は1930年代オスロに亡命していましたので、海外で初めて展示する場所にふさわしい所です。

英語版のカタログもあります。A Life in Politics 1913-1992 (Werner Krause 編集。 Bonn: Archives of Social Democracy of the Friedrich Ebert Foundation, 2000, pp.95: ISBN 3-86077-873-0)

Fridrich Ebert Foundation: Godesberger Allee 149, D-53175 Bonn. Tel. 00-49-228-883-480; Fax: 00-49-228-883-497; E-mail: archiv.auskunft@fes.de;

* オランダ南部抵抗博物館

1985年ゴータ(Gouda)に、オランダ南部抵抗博物館が開館しました。オランダにおける第二次世界大戦の始まり、1940年5月におけるドイツ侵略に抵抗する闘い、ドイツ占領下の日常生活の記録を保存・展示しています。また様々な抵抗の仕方、オランダの解放、戦争と占領後の状態も展示しています。展示は第二次世界大戦に限らず、平和や自由や人権のための闘いに関する展示もしています。そこでは平和、自由、人権をテーマにした移動展示物も作っています。

2000年4月26日から10月30日まで、「オランダ領東インドにおける抵抗者：1945－1950年」という展示をしました。

詳細を知りたい方は、下記に御連絡ください。

Resistance Museum of South Holland: Turfmarkt 30, 2801 HA Gouda, the Netherlands; Tel: 00-31-182-520-385; Fax: 00-31-182-583-825; E-mail: verzetmuseum-zh2wxs.nl

(詳細を知らせて下さったGerard Lossbroek に感謝します)

* 平和の庭園・公園

1. コソヴォと北アルバニアとモンテネグロの山岳地帯に、平和公園を作る提案があります。(「ミューズ」4号5ページに詳細を載せています。)

バルカン地方に平和公園を創る考えが、もう一つあります。ユーゴスラビアのチト一元大統領の孫であるスヴェトアナ・ブロズ(Svetlana Broz) さんも、サラエボに平和公園を創りたいと望んでおられます。

2. 2000年5月17日ニューヨークにガン協会の平和の庭が創られて式典が行われた時、国連事務総長は、次のように述べました。「国連は世界の平和のために努力しますが、この庭では精神的な平和を創ろうとしています。国連は戦争の傷を癒すことを求めています。この庭は心の癒しをする所です。私達を囲んでいる壁のモザイクは、『回復、許し、記憶』という戦争と平和のテーマのために創られました。このモザイクは何万個もの石からできていますが、それと同じように、平和もたくさんの物が集まってできていて、どの部分も欠かすことができないのです。」

3. コフィ・アナン氏は、2000年6月30日ブダペストのラオウル・ワレンベルグ公園(Raoul Wallenberg) で記念碑の除幕式が行われた時、次のように語りました。(スウェーデン人のワレンベルグは、1944年ブダペストのユダヤ人をナチスから救うのに、大きな役割を果たしたことで知られています。山根)

「ラオウル氏が最悪の時代の紛争と苦しみの中で、第三者が極めて重要な役割を果たし得ることを強調したのは、ここでした。絶望的な状況の中で、彼が調停したことで、被害者が希望を持ち、(ナチスと)闘い抵抗す

るようになったのは、ここでした。抑圧と迫害がある限り、彼はどの世代にとっても英雄的存在です。この記念碑を通して、ラオウル・ワレンベルグの生涯が忘れられないことを希望します。さらに彼の模範的生き方が、私達の意識と良心に生き続けることを願っています。」

詳細は国連文書 UN Press Release SG/SM/7475 参照。

4. 「許しの庭」が、レバノンに造られています。そこは、16年間ベイルートを分割していた最前線だった所です。それはオックスフォードにレバノン研究センターを創ったアレクサンドラ・アセイリ(Alexandra Asseily)さんの考えです。彼女は、ベイルートセンターを再建していた当局に働きかけ、古代ローマの都市の廃墟に「許しの庭」ができることになりました。3つのモスクと同じ位古い3つの教会の間に、ジャスミン、オレンジ、レモンのある三角形の庭がいくつもでき、レバノンの人々は過去（内戦で、15万人が死亡）と未来に思いをはせる場となるでしょう。

* グリーナム・コモン(Greenham Common)

イギリスのバークシャー(Berkshire)にあるグリーナム・コモンには、アメリカの空軍基地があり、そこには巡航ミサイルがありました。女性はピース・キャンプで20年間抗議してきました。そこに平和博物館を建設する計画がありましたが、実現しそうもありません。2巡航ミサイルが撤去されて10年後の2000年4月、米軍基地の囲いが取り除かれ、その数週間後最後の反対者もそこを去りました。ヒースの生えた荒野、1200エーカーは、市が所有し、市民が出入りできるようになります。元基地の中にあった建物は、企業に貸し、かつた核兵器を搭載した爆撃機の往来を見張った塔は、観光客が訪れるセンターになりました。冷戦のシンボルであったその場所には、巡航ミサイルと同じ大きさの彫刻と、取り壊された滑走路で造った記念碑が置かれる予定です。

グリーナム・コモン平和行進を記念して造られる彫刻、母子像は、資金が集まり次第ウェールズのある場所に置かれる予定です。（「ミューズ」4号5ページ参照）<http://www.floe.fsnet.co.uk/>

E-mail: greenhamsculpture@hotmail.com

平和博物館国際ネットワークのニュース

* オーストリア：シュライニング

「戦争から平和へ：暴力的文化から平和の文化へ」という展示が、5月8日から11月5日まで行われ、5万人の人々が訪問しました。シュライニング平和センターが分析したところ、訪問者の42%が学校の生徒や10代の子どもや若者でした。550校の学校から子どもたちが来て、ガイドが展示物の案内をしました。男女比を見ると、何と61%が女性でした。1150人を調査したところ、68%の訪問者が展示に「非常に満足している」し、さらに28%の訪問者が「満足している」という結果が出ました。従ってこの展示は、訪問者数からも、訪問者の満足度からも成功したと言えるでしょう。訪問者の感想によると、マルチメディアの使用、様々な問題提起、思考するきっかけになったこと、展示の背後の哲学やメッセージを高く評価しています。

展示が始まる際、国連事務総長やオーストリア大統領、バーゲンランド州(Bergenland)の役人など多くの人々からお祝いのメッセージが届きました。（シュライニングはバーゲンランドという州にあり、州が資金の半分を提供しています。）多くの人々が、展示は「平和の文化国際年」にふさわしい内容であると賞賛しました。オーストリア平和・紛争解決研究センターの所長であるジェラルド・マーダー氏は、約20年前から平和の取り組みを始め、大学、図書館、平和センターだけでなく、平和博物館も創られました。ユニークな平和研究・平和教育・訓練センターを創ることに成功し、また古いお城を現代の平和の砦にされたことに、心からお祝い申し上げます。

ヨーロッパ平和博物館は2001年4月7日に開館し、同時に調停と和解をテーマにした特別展示が行われます。古代から現代までどのような考えで調停が行われたのか、また家族、学校、近所、経済、政治、技術、環境など様々な分野で、どのように調停を行うことができるのかについて展示をします。現代様々な紛争で調停が成功した例も取り上げ、さらにワークショップも計画しています。

* ヴォルフゼック(Wolfsegg)

フランツ・ドイチ館長は、オーストリアで最初に開館した平和博物館を、「コミュニケーションと対話と討論の場」と考えています。彼の平和博物館には、「平和は、対話と理解と対話をする勇氣、対話をするよう励ますことから始まる」という言葉が掲げられています。ドイチ氏はこれまで対話ができるように、様々なテーマ（グローバルイゼーションと国際的な考え方、和解など）の資料を作成してきました。最近それをまとめて出版しましたが、インターネットで読めるようにする予定です。

1998年リンツの*Linzer Kirchenzeitung* という教会の新聞は、ドイチ氏の平和教育活動を称え、彼は連帯賞を受賞しました。

ベルギー

* ディクスムイデ(Diksmuide) - イーツェル塔(Ijzer Tower)

2000年4月イーゼル塔博物館の新しい階で、若者の平和活動に焦点を当てた展示が行われました。テーマには、ノーベル平和賞受賞者、世界の子ども達のための平和と非暴力の文化を創る10年、子どもの諸権利、戦争の真の犠牲、人道主義的NGOの活動などがあります。これらのテーマは、訪問者が平和のために活動することを勧めるようなやり方で、展示されています。その博物館が伝えようとしている重要なメッセージは、平和という言葉は、名詞だけでなく動詞でもあることです。つまり、私達は平和をもたらし、平和を維持し、平和を作り、平和について学ぶことができます。別な言い方をすれば、私達は平和のために何かをすることができるのです。フランドルの「若者と平和」というNGOは、この展示を作る際、大いに援助しました。

「イーツェル川付近の墓地への巡礼の旅」を組織する委員会会長のリオネル・ヴァンデンベルゲ(Lionel Vandenberghe)氏は、「平和主義とイーツェル塔」という演説で、1919年巡礼が始まって今日まで、巡礼において平和を願う気持と反戦の考えが重要であったことを歴史的に述べました。（ディクスムイデという都市は、第一次世界大戦の時前線でした。

ベルギー軍で戦死したフラマン人兵士の墓がイーツェル川の付近にあります。1920年以来毎年8月の最後の日曜日に、その墓まで巡礼の旅が行われています。詳細は、第三回平和博物館国際会議報告書「平和をどう展示するか」に載っています。注：山根）イーゼル塔を囲むその行事では、世界平和、軍需産業とベルギーの武器輸出、民族自決と国際的正義が重要なテーマです。

また約2000人の人々が、5月にベルギーで開かれた5つの平和コンサートに参加しました。11月から12月にかけて「国際紛争」という題で、ガビ・リンカンプ・ワリス(Gaby Lijnkamp-Warris)という画家の絵画が塔に展示されましたが、その絵が販売されました。

* イーペル：博物館「フランダース戦場にて」 (Ieper: In Flanders Fields Museum)

「フランダース戦場にて」という博物館では、2000年5月19日から21日まで第一次世界大戦における処刑に関する国際会議を開きました。処刑は、軍隊の規律を強要し、他の兵士の見せしめにするために、ほとんどあらゆる軍隊で行われる最大の処罰です。しかし軍隊では、司法上の誤りをしたり、また裁判の際、砲弾のショックなどで引き起こされたストレス障害を無視あるいは誤解することがありました。これまでタブーと考えられてきたことに関する公記録の研究は、最近イギリス、フランス、ドイツ、ベルギーの国々で行われています。この研究から、処刑に関する市民の論議が始まりました。また不当に処刑された兵士の親戚は、これまで処刑されたことを恥じて苦痛の多い人生を送ってこなければなりませんでした。裁判の再調査と死後の特赦を求める運動を始めました。

このような処刑に関する会議は初めてで、処刑に詳しい歴史家、運動をする指導者、処刑された兵士の子孫、政治家などが集まりました。会議の最終日には、イーペル地域で処刑された50の場所をつないだ特別な区域が明らかにされました。その中には悪名高いイギリス軍の処刑場も含まれていますが、それらすべての痕跡は除去されてき

ました。今では地図の上でも現地でも、わかるようにされています。また関連した小冊子と本が、英語とオランダ語で出版されました。(a brochure, *Unquiet Graves Route* and book, *Unquiet Graves*, by Julian Putkowski and Piet Chielens) 会議の間、英国の芸術家であるマーク・アンステイ(Mark Anstee)の「友軍の銃火」という展示が行われました。それはイーペルで展示された後、オタワやダブリンで展示されるでしょう。

3月の後半に「ある日の早朝に」という演劇が、オランダ語で上演されました。この感動的な劇は、1917年9月5日に処刑されたジェームズ・スミスという実在の人物の人生に関するものです。

欧州会議は、「フランダース戦場にて」という博物館に、2000年のヨーロッパ博物館賞を授与しました。審査委員会は、その博物館で感動的な体験ができること、ヨーロッパの重要な遺産を保存するのに貢献していること、あらゆる戦争の犠牲者に敬意を払い、平和への幅広い人々の要求を明瞭に表現していることを挙げてその博物館を推薦しました。賞として、ジョアン・ミロのブロンズ像と賞状と賞金が贈られました。

* ブラジル：平和博物館

「ミュージズ」No. 4 (P.7)でお知らせしましたので、詳細は省略します。

ドイツ

* ベルリン：平和図書館と反戦博物館

(Friedensbibliothek/Antikriegsmuseum)

2000年1月に、「民主主義と人権の家」に移動しました。(Greifswalder Str. 4, 10405 Berlin) しかし郵便で連絡を取る際は、前の住所をお願いします。(the Friedesstrasse 1) 開館時間は、月曜から金曜まで1-7 p mで、土曜日は1-5 p mです。

* ベルリン：平和のための芸術家

ウルズラ・マリア・ルーザーさんによると、2000年1月に「平和のための芸術家」という組織は解散しましたが、2001年2月10-17日インドのラジャスサンで会議を開きました。今後も絵画のワークショップなどを開く予定です。

* ヒンデラング (Hindelang)

ヒンデラングにある平和歴史博物館で2000年7月8日に、シュワビアン(Schwabian)地域の博物館館長代表のハンス・フレイ教授が「博物館における教育の課題」について講演しました。またハーブ奏者のカサリナ・ステレ(Catharina Stehle)さんの演奏もありました。

2001年7月14日には、博物館の入り口の前にフベルト・ラング(Hubert Lang)さんの平和の像が展示される予定です。

シュワビアン地域には、190の博物館がありますが、そのガイドブックは次の通りです。

Museen in Schwaben: Hans Frei 編集、Kunstverlag Josef Fink 出版

* インゴルシュタット(Ingolstadt)

インゴルシュタットに平和博物館を創る活動をしている団体は、博物館に関する考えをまとめた文書を出しました。その中で、展示はキリスト教の平和の倫理的価値観に基づくこと、中央及び東ヨーロッパを含め、ヨーロッパの統合に焦点を当てること、調停のやり方の教育を含め、教育学的要素を強調することが明らかにされています。博物館の主要な目的は、学習過程で視覚に訴えることです。また博物館は「出会いと理解の場」です。

その文書は、バイエルン州政府の人々を含め、平和博物館の実現に貢献できる人々に広く配布されました。その反応は良く、励みになるものでした。主な問題は、どんな団体が平和博物館に責任を持つのかということで、それ

は今後解決していかなければなりません。

* リンダウ(Lindau)

以前平和博物館があった所に、「平和の部屋一動きのある博物館」ができました。これは博物館を反戦博物館にすることや、陳列ケースに平和を展示することを避けたためです。平和の部屋では、人々を感動させるような平和実現の方法を示すことを目的にしています。3つの事に焦点が当てられています。「平和の心理学」、「(軍人ではなく)一般民の紛争処理」、「人々を激励できる例」の3つです。「動きのある博物館」は、2001年4月に開館します。

Pax Christi Bistumsstelle Augsburg, Christian Artner-Schedler, Ottmarsgasschen 8, D-86152 Augsburg. Tel. 00-49-821-517751; Fax: 00-49-821-150325; E-mail: pc.augsburg@gmx.de

* レマーゲン(Remagen)

レマーゲンの橋・平和博物館とレマーゲン市は、ヨーロッパにおける第二次世界大戦の終結55周年を記念して、2000年5月8日に様々な行事をしました。そこでは戦死した兵士に花輪を捧げて記念式典を行い、その後約500人のゲストがラインホールへ行き、創設者で館長のハンス・ピーター・クルテン氏や市長、米陸軍師団代表、アメリカ総領事など多くの人々が演説をしました。

その二ヶ月後約450人のドイツ兵捕虜(親戚も含め)が、集まりました。1985年の会合以来2度目の集まりです。戦争が終わる頃、約20万人の兵士がぞっとするような状態で収容所に入れられ、1200人は餓死しました。クルテン氏はブラック・マドンナ平和チャペルを収容所に建てましたが、元兵士たちはその近くに集まり、式典が行われました。博物館のニューズレター39号には、収容所の状態や博物館の訪問者の感想が載せられています。クルテン氏は、橋の歴史や平和博物館について本を執筆する予定です。

これまで暖房がなく、冬は閉館していましたが、今後暖房装置を設置する予定です。

* ズイーヴェルシャウゼン(Sievershausen)

反戦の家・平和センターでは、昨年アルバート・シュヴァイツァー生誕125周年を記念して、彼の生涯に関する展示をしました。また20世紀に平和の実現のために活躍した人々について展示をしました。(例えば、マンデラ、ナンセン、ズットナー、ガンジー、キング牧師、ローザ・ルクセンブルクなど)その他発展途上国における武器の貿易、地雷、子どもの兵士の問題についての展示も行われました。

* イタリア:ミラノ

「ミューズ」No.3(P.11)でお知らせしましたので、詳細は省略します。

日本

* 広島

広島平和文化財団が年2回発行している「平和の文化」N0.45(2000年11月発行)によると、G8サミットが沖縄で開かれた時、原爆展を行い、またその後関東地方の三都市でも原爆展を行いました。また8月4日に核兵器廃絶のための国際シンポジウムで報告された興味深い内容のまとめが載せられています。189か国の首脳に平和のメッセージを依頼したところ、35人しか返事がありませんでしたが、これらは8月に平和記念資料館で展示されました。その他「平和の文化」No.44の記事の紹介で、ジュネーブでの原爆展やスペインで「広島の庭園」の開園などを紹介しています。

「平和の文化」の記事はとても興味深く、次のホームページで日本語版も英語版も読むことができます。

<http://www.pcf.city.hiroshima.jp/>

* 高知：「草の家」

日本および世界の平和博物館の興味深い活動が、平和のための博物館・市民ネットワークの英文ニューズレター「ミューズ(Muse)」(山根和代編集)の3号(12ページ)と4号(16ページ)に載せられています。これは平和博物館国際ネットワークに入っている方に送られていますので、ここでその内容を要約する必要はないと思います。

平和博物館国際ネットワークとして、日本の平和博物館の展示や会議、関連した出版物などを海外に向けて、英語で知らせて下さっている山根和代さんに感謝の意を表したいと思います。彼女はさらにこの国際ネットワークのニュースを日本語で、日本人の読者に情報を提供しています。

* オランダ：ハーグにあるイ・ユン平和博物館

北朝鮮で結核で苦しんでいる子ども達を援助するために、2000年6月20日から7月12日まで自転車旅行を企画し、百万ドルの募金活動を展開しました。パリからハーグを経由してベルリンに旅をしましたが、約100人の朝鮮人とヨーロッパの人々が2000キロメートルの旅に参加しました。何十万人もの子ども達が、食料不足のため栄養失調と病気で苦しんでいます。約20万人の子ども達が、結核の薬を必要としています。ユニセフによると、約200万人の5才以下の子ども達が、結核などの病気のワクチンや薬を投与されていない状況です。

この取り組みは、いくつかの非政府組織によって組織されました。イ・ユン平和博物館館長のKee Hang Leeさんも、組織委員会のメンバーでした。6月26日には自転車に乗って旅をしていた人々の歓迎会をし、朝鮮戦争開始の50周年目に当たったため、50羽の鳩を空へ放ちました。

連絡先：The Organizing Committee for Paris-Berlin Charity Bicycling Event

(Tel.: 00-82-2-734-3287/7070; <http://www.longmarch.org/>)

さらに、2000年7月には北朝鮮から訪問者があったという嬉しいお便りがありました。

* オランダ：平和と非暴力のための博物館

平和と非暴力のための博物館を船に創る予定で、2000年11月念願の船を購入しました。現在使用されていない小型の船に、「平和」という名前をつけてオランダの各地を訪問し、平和と非暴力のメッセージを広げる予定です。船の購入と修復に費用がかかるため、さらに800のスポンサー、募金、ボランティアを募集しています。詳細は、博物館のニューズレターである*De Vredesboot*, Vol.6 (2000年12月発行)に載っています。

そのニューズレターには、8月26日から10月28日までゴータ(Gouda)の抵抗博物館で行われた「インドネシアにおける抵抗者」という展示についての記事があります。

1945年8月17日(日本の降伏から二日後。スカルノが、オランダ支配と日本占領からインドネシアが独立すると宣言)と1949年12月27日(インドネシア独立)まで、約112000人からなるオランダ軍が、オランダ支配のため派遣されました。約4000人の徴集兵が脱走し、約2000人が良心的徴兵忌避者として兵役義務の免除を求めました。

(ほとんどうまくいきませんでした。)展示では、抵抗をしたため軍隊で厳しい扱いを受けたことを明らかにしています。約10万人のインドネシア人が殺されたと言われていますが、残酷な行為を行って後悔している退役軍人を記録した映画が、上映されました。オランダ政府が、抵抗した兵士について再考し始めたのは、ほんの最近です。今後ホームページでも情報を提供する予定です。

<http://www.vredesmuseum.nl/> E-mail: vredesmuseum@workdmail.nl

* ノルウェー：ノーベル平和賞博物館

2001年は、ノーベル平和賞が創設されて百周年を迎えますが、世界各地で展示会、会議、記念出版が行われます。オスロでは、ノーベル平和賞博物館を2005年6月7日に創立する予定で、着々と準備が進められています。この年は、ノルウェーがスウェーデンから独立して百年目に当たります。

ノルウェーにはすでに優れた博物館がいくつか存在しています。1922年にノーベル平和賞を受賞したナンセン(Fridtjof Nansen: 生物学者、北極探検家、政治家、国際連盟の難民高等弁務官)に関するフラム博物館がありま

す。誰よりも早く北極を探検した彼の船の名前にちなんで、その博物館の名前が付けられました。ノーベル平和賞博物館では、ノーベル平和賞受賞者だけでなく、平和博物館に関する展示もする予定です。

ノーベルは1896年12月10日にイタリアのサン・レモにある別邸で亡くなりました。そこは今改修中ですが、その中にノーベル博物館が2001年の秋に開館する予定です。現在ノーベルの生涯に関する展示が行われていますが、今後ノーベル賞受賞者に関する展示がされる予定です。

* スペイン：ゲルニカ博物館

ゲルニカの爆撃63周年を記念して「和解のための芸術」という展示を2000年4月26日から始めました。9月以降バスク地方やドイツで展示されました。また41人の芸術家の作品を載せたカタログも出版されました。

また4か国語で博物館を説明した小冊子も出版されました。(バスク語、スペイン語、英語、フランス語) この博物館は、1998年に自由、平和、和解、人権のシンボルとして開館しました。小冊子によると、「スペインの文化省の援助で、今後スペインにおいて主要な平和博物館になるでしょう。」

連絡先：Mrs. Iratxe Momoitio, Director Gernika Museum, Plaza de los Fueros 1, 48300 Gernika-Lumo, Bizkaja(Basque Country), Spain

Tel.:00-34-94-627-02-13; Fax: 00-34-94-625-75-42; E-mail; museoa@gernika-lumo.net;

Web page: <http://www.gernika-lumo.net/>

* スイス：ハイデンのヘンリー・デュナン博物館

ヘンリー・デュナンの生涯に関する英文パンフレットができました。(The life of Henry Dunant, 1828-1910) また赤十字社創設に関するビデオの英語版もできました。(31分。38スイスフランで送料が必要です。VHS/Palのシステムです)

連絡先：Henry Dunant Museum Heiden, Postfach 51, CH-9410 Heiden, Switzerland

Tel. & fax: 00-41-71-891-4404

* 台湾：台北平和博物館

台北平和博物館は、2000年5月に閉館になりました。この博物館は1947年国民党と軍隊(KMT)が、市民を大虐殺したことを記念して、1997年に開館しました。博物館では和解を促進するために、14の展示、10冊の本の出版、80以上の文化的な活動を行ってきました。しかしKMTが市政を担当するようになり、過去を思い出すのは不愉快であるという理由で閉館されました。今後再び開館することを願っています。

連絡先：Edmund Ryden SJ, John Paul II Peace Institute, Loyola Building, Fujen University, 24205 Hsinchuang, Taiwan.

Tel. 00-886-2-2903-111 (ext.3111); E-mail: peace@mails.fju.edu.tw;

Website: www.fju.edu.tw/homepage2/peace/d4.htm

* イギリス：ブラッドフォード

ブラッドフォードでは、平和博物館を創るためにナイアス夫妻(Christine and Peter Nias)が活動されています。平和博物館を含めた国際平和センターを、建設する計画があります。また学校や地元の美術館と提携して、平和教育を推進しています。さらに移動展示物「平和運動の歴史と芸術」が、注目の的になっています。韓国では金大中大統領のノーベル平和賞受賞を祝って、展示されました。

この展示は5月から6月にかけて、ワリントン(Warrington)の子ども平和センターで行われました。そこは1993年アイルランド共和国軍(IRA)の爆弾事件で亡くなった二人の少年を記念して建てられました。そこは若者が、紛争について話し合い解決する場です。

平和博物館の活動の詳細は、「平和博物館の友」(*Friends of the Peace Museum*)というニューズレターで知

ることができます。

<http://www.peacemuseum.org.uk/>

* ロンドン：帝国戦争博物館 (Imperial War Museum)

ホロコーストに関する常設展示が、2000年6月7日に開始しました。ある展示物は、ドイツ、ポーランド、ウクライナにある強制収容所にあったものです。マスコミで大きく報道され、*The Independent*という新聞の社説では「ホロコーストの展示は、過去に関するだけではない。未来のために、記憶は重要である」と書かれてありました。展示の最後には、エドモンド・バーク (Edmund Burke) の「悪が勝利するのに唯一必要なことは、良き人々が何もしないことである」という有名な言葉があります。

展示は14才以下の子どもにはお勧めしませんが、毎日10時から18時までしています。(ただし12月24-26日は閉館)

Tel.:00-44-20-7416 5320 Web-site: <http://www.iwm.org.uk/>

* アメリカ：デトロイト

「刀を鋤に」平和博物館では、2000年3月19日に開館日を祝い、また死刑制度を早くからなくしたミシガンを祝福しました。ミシガンでは、1846年に死刑制度を廃止する法律を作りました。1830年最後に死刑が行われた所をアメリカの歴史的な場所とし、また記念碑を作る計画が3月19日に開始しました。スピーチ、踊り、歌以外に、武器を高熱で溶かして芸術作品にしたものが展示されました。詳細は、*Harbinger* というニューズレターに載っています。

会議について

* ライプツヒ：ヨーロッパ平和記念館会議

2000年10月ライプツヒで、ヨーロッパの平和記念館に関する会議が開かれました。ヨーロッパには数多くの記念物がありますが、寛容、理解、和解をテーマにした記念物はほとんどありません。国家主義的な記念物には問題があり、国際的な視点で見直す必要があります。今後も会議を開き、協力をしていくことになりました。参加者は、デンマーク、イギリス、フランス、イタリア、ドイツの記念館関係者です。なお会議の報告集は、ドイツ語、フランス語、英語で書かれています。

連絡先：Stadt Leipzig, Stadtgeschichtliches Museum, Voelkerschlachtdenkmal, D-04092 Leipzig, Germany.

Tel.& fax: 00-49-341-87 80 471;

E-mail: Voelkerschlachtdenkmal.Leipzig@t-online.de

Internet: <http://www.t-online.de/home/Stadtmuseum.Leipzig>

* ヨルダン：旅行を通して平和を求める国際研究所会議

ヨルダンのアナンで2000年11月8-11日に、旅行を通して平和を求める第一回国際会議が開催されました。(The International Institute for Peace through Tourism) 旅行には、社会的文化的経済的環境的な価値があり、平和の実現に貢献することができるのです。

* アメリカ：集団虐殺に関する国際会議

2001年6月12日ミネソタ大学で、集団虐殺に関する第四回国際会議が開催されます。

(Association of Genocide Scholars) 連絡先は、次の通りです。

Dr. Frank Chalk, Concordia University, Dept. of History, 1455 de Maisonneuve Blvd. West, Montreal, Quebec H3G 1M8, Canada. Fax: 00-1-514-848-4538;

E-mail: drfrank@alcor.concordia.ca

その他、「ユートピア：西洋における理想的社会を求めて」という展示が、2000年10月から2001年1月までニューヨーク図書館で行われました。

出版物

- * *ICOM News*: 国際博物館会議(the International Council of Museums) のニュース (年4回発行) ICOM: Maison de l'UNESCO, 1 rue Miollis, F-75732 Paris, Fax: 00-33-1-4306-7862; e-mail: secretariat@icom.org; <http://www.icom.org/>
- * 坪井主税: 'The Reconstruction of the International Museum of War and Peace in Lucerne; A Visual Approach' 札幌学院大学人文学会紀要No. 67 (2000年3月)(日本語で執筆されています)
- * *A Journey to Nagasaki*: 『平和読本・長崎への旅』英語版、長崎証言の会編集 852-8105 長崎市目覚町25-5 長崎証言の会 Fax: 095-848-6879
- * Nigel Young, 'Historical Memory and Peace education; The Creation of a Peace Culture through the Construction of Public Peace Memory' in *Report of the International Peace Education Conference of Geneva, November 26-29, 1998* (Geneva: International Peace Bureau, 2000)
- * Catherine Moriarty, 'Review Article: The Material Culture of Great War Remembrance' in *Journal of Contemporary History*, Vol.34, No.4, 1999
- * Beryl and Alistair Milner, 'Grassroots house- a peace museum' in *The Friend*, 18th February 2000

以上が、平和博物館国際ネットワークのニュースの要約です。

*** *** ***

海外また国内から、次のようなお便りがきていますので、お知らせします。

* サマルカンド：国際平和・連帯博物館

充実したホームページがありますので、御覧ください。

<http://www.friends-partners.org/~ccsi/nisorgs/uzbek/peacemsm.htm>

* IFLACアメリカ支部

文化と文学を通して平和の実現を目指す国際組織として、IFLAC(International Forum of Literature and Culture for Peace)があります。そのアメリカ支部の代表であるジョージア・ジョーンズさんのホームページを御覧ください。

<http://www.ladybuglive.com/>

* オランダ：「戦争を記憶する旅」

オランダ在住の粟生美代子さんのホームページを紹介します。オランダの平和博物館などを訪問されたことを日本語で書いておられます。

『戦争を記憶する旅』URL: <http://www.jca.apc.org/~reiziger/remindwar.htm>

* アメリカの「核時代の平和財団」のホームページ：広島・長崎の紹介

サンタバーバラの「核時代の平和財団」のホームページに、昨年9月に展示した広島と長崎の原爆展、平和のメッセージ、地域での活動が載っています。

<http://www.wagingpeace.org/exhibit/welcome.htm>.

(情報を提供して下さった藤岡惇様、どうも有難うございました。)

* ロングラップ平和記念館設立計画

ロングラップ平和記念館を設立する計画があります。ロングラップ島民のアメリカ核実験、その被害の実相、島民の補償などの資料を展示するとともに、島民の教育や自立、医療を援助する施設も併設し、ロングラップと日本の運動との支援連絡センターの役割も果たすような平和記念館を目指しています。連絡先は、次の通りです。

Abacca Anjain Maddison : Senator of the Marshall Islands abaccaa@hotmail.com

(情報を提供して下さいました土田弥生様、どうも有難うございました。)

* 長崎：『平和文化研究』

長崎総合大学長崎平和文化研究所では、年一回『平和文化研究』を刊行しています。御希望の方には無料でお送りしています。(交換して送っていただけるものがあれば、有難いのですが)バックナンバーは9集を除いて在庫があります。各号の目次は平文研のホームページに掲載してあります。(芝野由和氏より)

連絡先： 長崎総合科学大学長崎平和文化研究所 (〒851-0193 長崎市網場町536)

TEL/FAX 095(838)4866(直通) E-mail: sibano@nipc.nias.ac.jp

平文研homepage : <http://www.nipc.nias.ac.jp/>

今後の国際会議のお知らせ

- The Amsterdam Conference on Remembrance: 2-5 May

連絡先 : Office Netherlands Presidency ITF Holocaust AMAD, Ministry of Foreign Affairs: P.O. Box 20061
2500 EB The Hague Netherlands. Fax: +31-70-348 6468

Email: alglei-neth-pres.itf@minbuza.nl

- The fifth European Conference on Peacemaking & Conflict Resolution: 16-21 Sept.

International School of Banking and Finance, 7, Ks.bpa St. Adamskiego str., 40-069 Katowice, Poland
Tel./Fax.: +48-32-251-78-23

- A Peace Odyssey: Commemorating the 100th Anniversary of the Awarding of the Nobel Peace Prize: Nov. 8,9,10 at Hofstra University, New York

連絡先 : Athelene A. Collins-Prince: Hofstra Cultural Center 200 Hofstra University Hempstead, NY
11349-2000 Fax: (516) 462-4793

E-mail: hofculctr@hofstra.edu

以上のような連絡が入っています。今後電子メールで情報を入手したい方は、「草の家」に御連絡下さい。(年二回発行の「ミューズ」でお知らせする場合、国際会議の申し込みの締め切りに間に合わないことがあります。) また6月に海外へ英文ニュースレターを発行します。日本各地のニュースをお知らせ下さい。

